

第八十六回
帝國議會
貴族院

地方鐵道及軌道ニ於ケル納付金等ニ關スル法律案特別委員會議事速記録第三號

付託議案

○地方鐵道及軌道ニ於ケル納付金等ニ關スル法律案

○鐵道抵當法中改正法律案

○日本通運株式會社法中改正法律案

○郵便法中改正法律案

○船員保險法中改正法律案

昭和二十年一月三十一日(水曜日)午後二時三十分開會

○委員長(伯耆二荒芳徳君) 只今ヨリ

本委員會ヲ開催致シマス、昨日質疑應答ヲ重ネマシタ地方鐵道及軌道ニ於ケル納付金等ニ關スル法律案、鐵道抵當法中改正法律案、日本通運株式會社法中改正法律案、郵便法中改正法律案、此ノ四法律案ハ、既ニ御質問モ盡キタヤウデゴザイマスカラ、此ノ四ツノ法律案ニ對シテ討論ニ移リマス

○内田重成君 只今付議サレマシタ四法案ハ、何レモ時局ニ適切ナル法案デアルト考ヘマスノデ、原案ニ賛成ヲ致シマス

○委員長(伯耆二荒芳徳君) 只今内田委員カラ原案ニ賛成ノ御意見ガゴザイマシタ、外ニ御發言ガゴザイマセヌケレバ、之ヲ以テマシテ採決ニ進ミタイト思ヒマス、此ノ法案ニ對シテ御贊成ノ方ノ舉手ヲ求メタイト思ヒマス

(總員舉手)

○委員長(伯耆二荒芳徳君) 全員御贊成ト認メマス、從ヒマシテ此ノ四ツノ法律案ハ可決スベキモノト本委員會ニ於テ認メマシタ、次ニ政府當局カラ新ニ付議サレマシタ船員保險法中改正法律案

法律案ノ御説明ヲ承リタイト存ジマス

○國務大臣(廣瀨久忠君) 只今議題トナリマシタ船員保險法中改正法律案ニ

付キマシテ、提案ノ理由並ニ要旨ヲ御説明致シマス、今日ノ情勢下ニ於キマシテ、海上輸送ノ飛躍的増強ヲ圖リマスコトガ焦眉ノ急務デアリマス、之ガ爲ニハ各般ノ施策ヲ強力且適當ニ實施スルヲ要スルノデアリマスガ、船舶運輸ノ衝ニ當ル船員ヲシテ奮起勇奮、決戰海上輸送ノ使命ヲ遂ニ挺身セシメマスコトガ極メテ緊要ト存ズル次第デアリマス、船員保險法ハ我が國海運ノ發展ニ資スル爲、船員勤勞力ノ確保増強ト、船員援護ノ充實トヲ主眼トスル國家ノ厚生施設トシテ昭和十四年四月其ノ制定ヲ見、其ノ後大東亞戰爭勃發ニ依リ情勢ノ變遷ニ鑑ミ、昭和十八年四月傷病給付ノ充實ト、戰時加算制度ノ創設トヲ目途トスル改正ヲ經テ今日ニ至ツタノデアリマス、併シナガラ戰局ノ推移ハ更ニ海上輸送ノ様相ヲ一變シ、船員ノ勤勞狀況モ亦著シク加重セラレマシテ、本法ノ根本ノ改正ヲ要請スルノ實情ニ立至ツタノデアリマス、加フルニ陸上勤勞者ニ對シマシテハ、昨年勞働者年金保險法ノ劃期ノ改正ガ行ハレ、健康保險法モ亦面目ヲ改ムルニ至リマシタ結果、是等トノ權衡上ヨリ見マスルモ、船員保險法ノ改正ハ遲延ヲ許サヌ實情ニアルト考ヘラレルノデアリマス、敍上ノ事情ニ鑑ミマシテ、政府ハ今回船員保險法ノ改正ヲ企圖シタ次第デゴザイマシテ、以下其ノ内容

ニ付キマシテ説明ヲ申上ゲマス、改正ノ第一點ハ被保險者範圍ノ擴張デアリマス、現行制度ニ於キマシテハ乗船中ノ船員ノミヲ被保險者ニ致シテ居ルノデアリマスガ、今次ノ改正ニ當リマシテハ豫備船員及應召、入營中ノ船員ト雖モ船舶所有者ニ使用セラル、限り普ク本制度ノ恩澤ニ浴セシメ、船員援護ノ充實ニ遺漏無キヲ期セムトスルモノデアリマス、改正ノ第二點ハ傷病給付ノ擴充強化デアリマス、即チ船員ノ過勞、業務災害ノ増加等ニ基因スル傷病ノ増加ノ狀況ニ鑑ミマシテ、船員ノ健康保護ノ徹底ヲ圖ル爲、從來療養ノ給付及傷病手当金ノ支給ヲ致シマセヌデシタ船舶職員ニ對シマシテモ、總テ其ノ保護ヲ及シマスト共ニ、療養ノ給付及傷病手当金ノ支給期間ヲ延長シ、其ノ内容ヲ一段ト改善充實セムトスルモノデアリマス、改正ノ第三點ハ遺族年金及葬祭料制度ノ創設デアリマシテ、遺族援護ノ強化ヲ圖リマスコトハ、船員ヲシテ後顧ノ憂ヲ斷タシメ、船員ノ士氣ヲ鼓舞スル所最モ大ナルモノガアルト認メラレマスノデ、現行制度ニ於ケル死亡手当金ヲ廢止シ、新ニ本制度ヲ創設致サムトスル次第デアリマス、又葬祭料制度ニ付キマシテハ、船員法上ノ同種制度ヲ吸收シテ、國家ノ制度トシテ其ノ整備ヲ圖ラムトスルモノデアリマス、改正ノ第四點ハ養老年金、障害年金、障害手当金及脱退手当金等保險給付ノ充實改善デアリマス、現行制度ニ於ケル是等給付ノ内容ハ陸上勤勞者ニ對スル厚生年金保險法ノ内容ト比較致シマス時、或ハ其ノ給付金額ニ於テ、或ハ其ノ給付條件ニ於テ遜色ヲ認メマスノデ、今回之ヲ改メマシテ、特ニ職務ノ爲ニ發病トナリマシタ者ニ對シマシテハ厚生年金保險法ノ例ニ準ジ、給付ノ内容ヲ一段ト充實シ、安ンジテ其ノ職務ニ精勵シ得マスヤウ致サムトスル次第デアリマス、最後ニ今回改正ノ主眼ト致シマシテ最モ考慮ヲ拂ヒマシタ點ハ戰時特例ノ徹底ノ強化ヲ圖リ、以テ海上輸送確保ノ爲幾多ノ危険ヲ冒シ有ラユル困苦缺乏ヲ嘗メ、默々トシテ政團シツ、アル船員ノ奮闘ニ應ヘムトスル所ニアリマス、即チ其ノ第一トシテハ戰時加算率ノ増率デアリマスガ、戰時危險區域ヲ航行スル船舶ニ乗組ム被保險者ニハ、昭和十九年一月一日以降其ノ乘組期間中二月以內ノ加算ヲ致シマスト共ニ、戰時危險ニ因ル犧牲者ニ對シマシテハ特ニ三月以內ノ加算ヲ行ヒ、總テ加算ニ要スル費用ハ國庫ニ於テ負擔スルコトヲ致シマシテ其ノ勞苦ニ酬ヒ、援護ノ充實ヲ圖ラムトスルモノデアリマス、改正ノ其ノ第二ハ戰時危險ニ因ル發病又ハ死亡者ニ關スル障害年金、遺族年金等ノ保險給付ニ要スル費用ヲ戰時危險ノ特殊性ニ鑑ミマシテ、之ヲ保險料ト切離シ、使用主及船員ノ負擔ニ俟ツコトナク、國庫ノ負擔ト致シタコトデアリマス、其ノ改正ノ第三ト致シマシテハ大東亞戰爭勃發後ノ戰時危險ニ因ル犧牲者ニ對シマシテハ、假令本法施行前ニ發病ト爲リ、又ハ死亡シタル者ト雖モ總テ障害年金、遺族年金等ノ給付ヲ行フコトトシ、

之ニ要スル費用モ亦國庫ノ負擔ト致シマシテ、是等犧牲者ノ保護ト遺族ノ援護トニ萬全ノ措置ヲ執ラムトスルモノデアリマス、之ヲ要スルニ今次ノ改正ハ現行制度ヲ根本的ニ改訂致シマシテ、保險給付ノ全面ニ互ツテ其ノ内容ヲ健康保險法又ハ厚生年金保險法ノ同種給付以上ノモノト致シマシタ外ニ、特ニ戰時特例ノ強化擴充ヲ圖リ、極力船員ノ優遇ニ努メ、其ノ士氣ノ昂揚ヲ圖リ、以テ本制度ヲシテ聖戰遂行ノ強力ナル礎石タラシメムトスルニ外ナラヌノデアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ切望致シマス

○委員長(伯耆二荒芳徳君) 皆サソニ御諮ラ致シマスガ、本法法律案ハ配付サレマシテカラマダ十分ノ時間モ經ツテ居リマセヌシ、皆サソノ御調査ノ御用意モ或ハ未ダシキモノモアルカト存ジマスノデ、今日ハ之ヲ以テ散會致シタイト思ヒマスガ、如何デゴザイマスカ

○村上泰一君 私委員會ノ議事進行ノ方法ニ付キマシテ一ツノ希望ヲ述ベテ見タイト思ヒマス、ソレハ第一ニハ今度ノ改正法律案ノ大體ノ趣旨ハ只今當局大臣カラ承リマシタガ、多クノ條項ニ互リマシテ細マカイモノガアリマスノデ、次回ノ委員會ノ最初ニ、主管廳ノ適當ノ方カラ逐條的ニモツト詳シク説明ヲ承ラシテ戴キタイト云フコトヲ私ハ希望致シマス、ソレトモウ一ツハ、今日ノ此ノ戰局ニ於キマシテ船員ガ非常ニ重要ナ立場ヲ持ツテ居ルコトハ申ス迄モアリマセヌ、其ノ船員ノ立場ニ付キマシテハ我々ハ既ニ十分ニ認識ヲ

持ツテ居ナケレバナラヌ管デアリマス
ケレドモ、私ノ如キハ到底サウダトハ
申兼ネマス、ソコデ次回ノ委員會ニ於
キマシテ主管廳ノ御方カラ、海員ニ關
スル現在ノ一般ノ制度、ソレガ國家カ
ラドウ云フ待遇ヲ受ケテ居ルカ、之ヲ
養成スル機關ハドウナツテ居ルカ、海
員ヲ獲得スルコトガ今日急務デアルニ
モ拘ラズ頗ル困難デアルト云フ實情デ
アリマスノデ、其ノ間ニ處シテ當局ハ
ドウ云フ施設ヲシテ居ラマスカ、斯
ウ云フヤウナコトニ付テ、私モ船員ノ
コトニ付テハ嘗テハ多少心得テ居リマ
シタガ、最近船舶運賃會ト云フヤウナ
新シイ施設モ出來マシテ、船員ノ立場
モ餘程變ツテ參ツテ居リマスシ、現在
ノ船員ニ關スル一般ノ制度ノ概略ト云
フコトヲ主管廳ノ方カラ承ラシテ戴キ
タイト思ヒマス、是ハ此ノ法律案ノ主
管廳タル厚生省デナク、運輸通信省、
海運總局ノ管轄カト思ヒマスルガ、其
ノ部局ノ下ナカニオイデラ願ツテ御
話ヲ承ルト云フコトヲ私ハ希望致シマ
ス、併シ他ノ皆サンノ御意向ニ依ツテ
ハ差控ヘテモ宜シウゴザイマスガ、此
ノ場合私ノ希望ヲ申上ゲテ置キマス
○委員長(伯爵二荒芳德君) 大變適當
ナ御要求カト思ヒマスノデ、サウ云フ
コトニ取計ラフコトニ各政府委員ノ方
方ニモ御願ヲ致シテ置キマス、ソレデ
ハ今日ハ之ヲ以テ散會致シマス
午後二時五十三分散會
出席者左ノ如シ

委員長 伯爵二荒 芳德君
副委員長 男爵柴山 昌生君
委員

子爵保科 正昭君
子爵大久保教尙君
村上 恭一君

國務大臣
厚生大臣 廣瀬 久忠君
田邊 重成君
大橋 八郎君
男爵神山 嘉瑞君
渡邊 覺造君
秋田 三一君

政府委員
厚生政務次官 中井川 浩君
厚生參與官 馬場 元治君
厚生省保險局長 伊藤 謹二君
厚生書記官 宮田 爲益君
厚生書記官 花澤 武夫君
運輸通信政務次官 前田房之助君
運輸通信省企畫局長 鈴木 恭一君
運輸通信省鐵
道總局長官 堀木 鎌三君
運輸通信省海
運總局長官 小野 猛君
運輸通信省海運
總局船員局長 白石 萬隆君
鐵道監 小倉 俊夫君
運輸總裁 塩原時三郎君
通信院總裁 小林 武治君
通信院總務局長 立花 章君
通信院業務局長 齋藤 正一君
通信院工務局長 松永 忠男君
通信院通信監督局長 中村 純一君
通信院貯金保險局長 吉田 弘苗君
通信院電波局長 神尾 健夫君
通信院防衛通
信施設局長

昭和二十年二月三日印刷

昭和二十年二月三日印刷

昭和二十年二月三日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局